

船舶事故調査報告書

平成22年7月8日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年11月6日（金） 16時15分ごろ
発生場所	長崎県西海市西海町水浦郷 高後埼灯台から真方位118°6,800m付近 (概位 北緯33°04.4′ 東経129°43.9′)
事故調査の経過	平成21年11月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート ^{コーションツ} KOSHIN II、5トン未満 271-22361長崎、個人所有 7.14m(Lr)×2.75m×1.36m、FRP ディーゼル機関、110.33kW、平成2年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 78歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成14年6月10日 免許証交付日 平成18年6月13日 (平成24年6月9日まで有効)
死傷者等	負傷 3人（船長、同乗者2人）
損傷	プロペラシャフト折損、右舷側船底外板全長にわたり凹損等、右舷側ブルワークにき裂
事故の経過	本船は、船長ほか同乗者2人が乗船して、長崎県崎戸島沖で釣りを行ったのち、平成21年11月6日15時10分ごろ長崎県佐世保市針尾島に向けて帰途についた。 船長は、約18ノットの速力（対地速力）で高後埼沖を航行中、眠気を感じるようになったが、背もたれの付いたいすに腰掛け、手動操舵で操船に当たり、西海市猪ノ首鼻沖で針尾瀬戸に向け2～3°右転し、舵を切ったまま居眠りに陥った。 本船は、徐々に右転しながら航行を続け、高後埼灯台から真方位118°6,800m付近において、西海市水浦郷の海岸の捨て石に乗り揚げた。 同乗者2人は、船長の連絡で来援した海上保安部の巡視艇で病院に向かい、船長は、海上保安部への説明後、病院に向かった。また本船は、引き下ろし後、西海市の造船所にえい航された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約1～2m/s、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮末期

<p>その他の事項</p>	<p>出航時、本船の喫水は、船首約0.50m、船尾約1.05mであった。 船長は、月に2～3回のペースで釣りに出かけていた。 船長は、事故前日の22時ごろに就寝して、翌日02時30分ごろに起床し、03時50分ごろ自宅を出発して、本船の係留地まで約1時間30分の間、自動車を運転した。 同乗者2人は操縦免許を受有せず、事故当時、船尾甲板で船尾方を向いて座っていて、船首方は見ていなかった。 船長は、航行中に眠気を感じたとき、いつも眠気防止にガムを噛むようにしていたが、当時は、まだ大丈夫と思いガムを噛まずに操船に当たっていた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし 本船は、猪ノ首鼻沖を南東進中、船長が針尾瀬戸に向けて右舵を切ったまま居眠りに陥ったため、西海市水浦郷の海岸に向けて航行し、同海岸に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、睡眠が不足していたこと、及び背もたれの付いたいすに腰掛け、居眠りに陥りやすい姿勢で操船に当たっていたことから、居眠りに陥った可能性があると考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が猪ノ首鼻沖を南東進中、船長が居眠りに陥ったため、西海市水浦郷の海岸に向けて航行し、同海岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	